

ふるさとふちゅう

再発見

【第65回】府中が農村だったころ（25） ～府中町内の山（8）

今回は現在の山の様子について見てみましょう。図1は町の土地利用を示すグラフです。普段目にする府中町の風景は住宅や工場ばかりと思いがちですが、一番広いのは山林。4・5平方キロメートルある面積は町域全体（10・41平方キロメートル）の43・2%を占めます。整備され気楽に行ける空城山や揚倉山、準備して登らなければ難しい呉姿々宇山近辺など変化に富み、住宅地の近くに豊かな自然があるという府中町の魅力の一つになっています。

ところで、府中町の産業はどうだったでしょうか。昭和28（1953）年発行の『第1回広島県統計年鑑』

によれば町の総人口11,408人のうち14歳以上の就業人口は多い順で製造業961人、農業954人、運輸・通信業774人、卸売・小売業453人、サービス業408人、公務321人でした。現在とは大きく違い、当時は農業と工業の町だったと分かります。その後、昭和30年代から府中町は広島市近郊の住宅地として人口が急増し、町の姿も大きく変わりました。農業が主であった頃には肥料や燃料を採取するため日常的に山に入ってきたが、現在はそうした目的で山に入ることが少なくなりました。図2は町の立体図です。北側の高い山から続く尾根と谷の先に広がる町の姿がよく分かります。

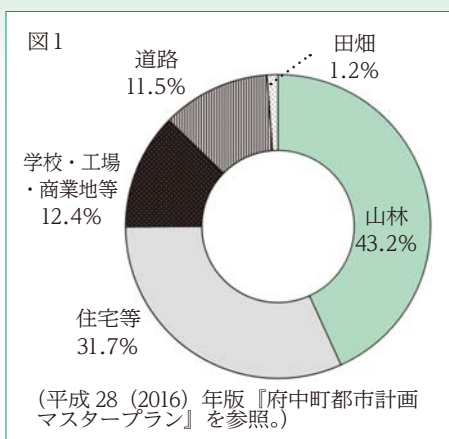
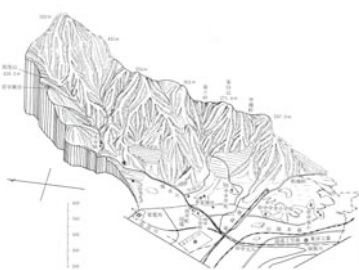


図2



（『安芸府中町史第一巻』から転載。）

府中町文化財保護
審議会委員
菅 信博

町制施行90周年記念特別企画

あの日の風景 今の風景

ふちゅうは昭和12（1937）年1月1日に町制を施行しました。来年1月1日に90周年を迎えます。この節目に、府中町の昔と今の風景をご紹介します。今回は役場庁舎の移り変わりです。



- ① 一番最初の町役場です。明治25（1892）年に建てられた村役場庁舎が利用されていました。
- ② 昭和29（1954）年、左の写真にある役場庁舎が鉄筋2階建て地下1階のものに建て替えられました。
- ③ 昭和59（1984）年、現在の場所に鉄筋5階建ての庁舎が建てられました。
- ④ 役場庁舎の移設後、旧庁舎は歴史民俗資料館として改装・利用されました。
- ⑤ 歴史民俗資料館は移設に伴い、令和5（2023）年に解体されました。